



福岡県の あゆみ

福岡県は、むかしから、アジアとの交流の
窓口として、大陸からいろんな文化や学問、
外国の品ものを受け入れてきたんだよ。

(国のはじまりのころ) 弥生・古墳時代

朝鮮半島、中国大陸に近い福岡県は、いち早く大陸文化にふれ、発展し、日本のどの地方よりも早く米づくりを始めました。

志賀島で見つかった金印や沖ノ島に埋蔵されていた品々は当時の繁栄の様子を物語っています。

平野には小さくなが誕生しました。そのうちのひとつは、卑弥呼で有名な邪馬台国だったのではないかとわれています。

戦国時代

多くの実力者たちが各地で競い合った時代、すぐれた戦略で活躍した黒田官兵衛や、忠義、武勇が九州一と高く評価された立花宗茂が、藩の基礎を作りました。

江戸時代

福岡藩、久留米藩、柳河藩、小倉藩などがおかれたこの時代は、平和が続きました。

明治時代

廃藩置県により、昔の藩の地域が県となりました。そしてその後、小倉、福岡、三潴の3県の時期をへて、1876年(明治9年)に現在の福岡県ができました。

また、県内の製鉄、石炭産業が日本の近代化を支えました。

飛鳥・奈良・平安時代

学生や僧侶がさかんに海をわたり、大陸の新しい学問や文化を持ち帰るようになり、日本の外交の中心として大宰府が置かれました。

鎌倉・室町時代

二度にわたる元の襲来(元寇)の時、九州武士の戦いぶりは勇ましく、「蒙古襲来絵詞」に語りつがれています。貿易においても博多商人は海外で活躍し、多くの南国の品々をもたらしました。

大正時代～現代

その後、商工業や農林水産業などが発展、空港、道路、鉄道も整備されました。

今や、日本海側のアジアを向いた一大拠点になっています。

